

### 3. 福岡市内河川の底生動物をもちいた環境評価

環境科学課 野中 研一・岩佐 有希子  
藤代 敏行・木下 誠・池田 嘉子

#### 第 35 回九州衛生環境技術協議会

福岡市では、従来から市内に流入する河川の底生動物調査を行い、これをもちいた環境評価を行っている。2008 年度は本市の東部を流れる多々良川について行った。

調査は、4 月 22 日、10 月 30 日に多々良川の上流域から下流域にかけての 5 地点で採水およびキック・スワイプ法による底生動物の採取を行ない、同定により得られた結果から、ASPT 値(Average score per taxon)および簡易水質判定法による水質階級を算出するとともに、過去に同河川で行った調査結果および市内の他の河川(那珂川、御笠川、樋井川、室見川)のデータと比較を行なった。その結果は、以下のとおりであった。

- ①多々良川の最下流調査地点の ASPT 値は、他に調査を行っている市内 4 河川の最下流調査地点に比べ比較的高く、また上流域と下流域の ASPT 値の差が小さかった。
- ②ASPT 値は、基本的には上流域から下流域へ下るにつれ次第に低下し、簡易水質判定法でも同様に水質階級は次第に低下した。
- ③多々良川の各調査地点での ASPT 値を過年度の値と比較すると、ほとんどの地点で経年的に値が増加しており、生物の生育環境として改善されているものと推察された。